

117 明治14年6月26日 菊池長閑宛

兼て那珂より申込ありたる旧鶴舞藩当時千葉県の柏井猪智といふ女子師範学校の卒業生にて同校付小学校の先生をして居婦人ハ私に至極相応なる仁と認る故夫婦の契を結ぶべくと存す婚姻の儀ハ兼て私に御任せも有之且彼此申上ても遠方なれハ是非の御判断を付らるゝ由もなき事なれ共念の為御問合申す年齢ハ二十歳近くの由只右に付招かねは成ぬ親類友達合せて七拾人近ありて概し二円と見ても百四十円位私并波の身支度や結納や回還りの贈物代杯にて二百円余入用なるか右金高の工夫に込りたる所幸彼古金を九百六拾円に払たれハ此中より右費用繰替可遣と存す是亦御断り申置皆様も折角御急ぎの趣といへ且波や重次郎の帰らぬ中に婚礼するハ宜ふと存すれハ来月十日頃に愛度誦納る積なり夫故入費の出処も右の如く極たれハ不悪思召被下たし
取急くまで

草々

明十四

六月廿六日

武夫

父君

愈御隠居なされたる由御愛たし